

第1章 市の概況

1. 市の概要
2. 1日の流出入人口及び鉄道乗客数
3. 市の人口
4. 地域特性の把握
5. 隣接市との関係

第1章 市の概況

1. 市の概要

本市の市域は、総面積 11.33k m²、東西約 4.1km、南北約 4.0km とコンパクトな都市です。

本市は土地利用の大部分が宅地となっており、都心に近いながらも、小金井公園、武蔵野公園、野川公園及び国分寺崖線（はげ）周辺の緑地等があり、豊かな自然環境に恵まれています。また、東西にJR中央本線が走っており、東京駅より西方 25.0km と交通の利便性にも恵まれています。

JR中央本線武蔵小金井駅、東小金井駅の駅勢圏（東西の区分）と、国分寺崖線（はげ）により分けられる坂上・坂下の生活圏（南北の区分）により、市内を「武蔵小金井地域」、「東小金井地域」、「野川地域」の3地域に区分しています。（出典：都市計画マスタープラン）

図 市の概要

面 積	11.33 k m ² （平成 19 年 8 月現在） 内訳 <table border="0"> <tr> <td>宅地</td> <td>6.85 k m² (60.5%)</td> </tr> <tr> <td>公園等</td> <td>0.98 k m² (8.6%)</td> </tr> <tr> <td>農用地</td> <td>0.86 k m² (7.6%)</td> </tr> <tr> <td>森林・原野</td> <td>0.17 k m² (1.5%)</td> </tr> <tr> <td>河川等</td> <td>0.13 k m² (1.1%)</td> </tr> <tr> <td>道路等</td> <td>1.81 k m² (16.0%)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0.53 k m² (4.7%)</td> </tr> </table> （出典：東京都統計年鑑（平成 21 年））	宅地	6.85 k m ² (60.5%)	公園等	0.98 k m ² (8.6%)	農用地	0.86 k m ² (7.6%)	森林・原野	0.17 k m ² (1.5%)	河川等	0.13 k m ² (1.1%)	道路等	1.81 k m ² (16.0%)	その他	0.53 k m ² (4.7%)
宅地	6.85 k m ² (60.5%)														
公園等	0.98 k m ² (8.6%)														
農用地	0.86 k m ² (7.6%)														
森林・原野	0.17 k m ² (1.5%)														
河川等	0.13 k m ² (1.1%)														
道路等	1.81 k m ² (16.0%)														
その他	0.53 k m ² (4.7%)														
人 口	11 万 6,095 人（平成 24 年 1 月 1 日現在） 昼間人口 9 万 5,195 人 （平成 17 年国勢調査） 流入人口 2 万 8,101 人 流出人口 4 万 3,939 人 昼夜間人口比率 85.7% （平成 17 年夜間人口（約 11.1 万人）に対する昼間人口（約 9.5 万人）の割合）														
鉄 道	鉄道路線及び駅数 JR中央本線：2 駅（武蔵小金井駅、東小金井駅） 西武多摩川線：1 駅（新小金井駅）														

2. 1日の流出入人口及び鉄道乗客数

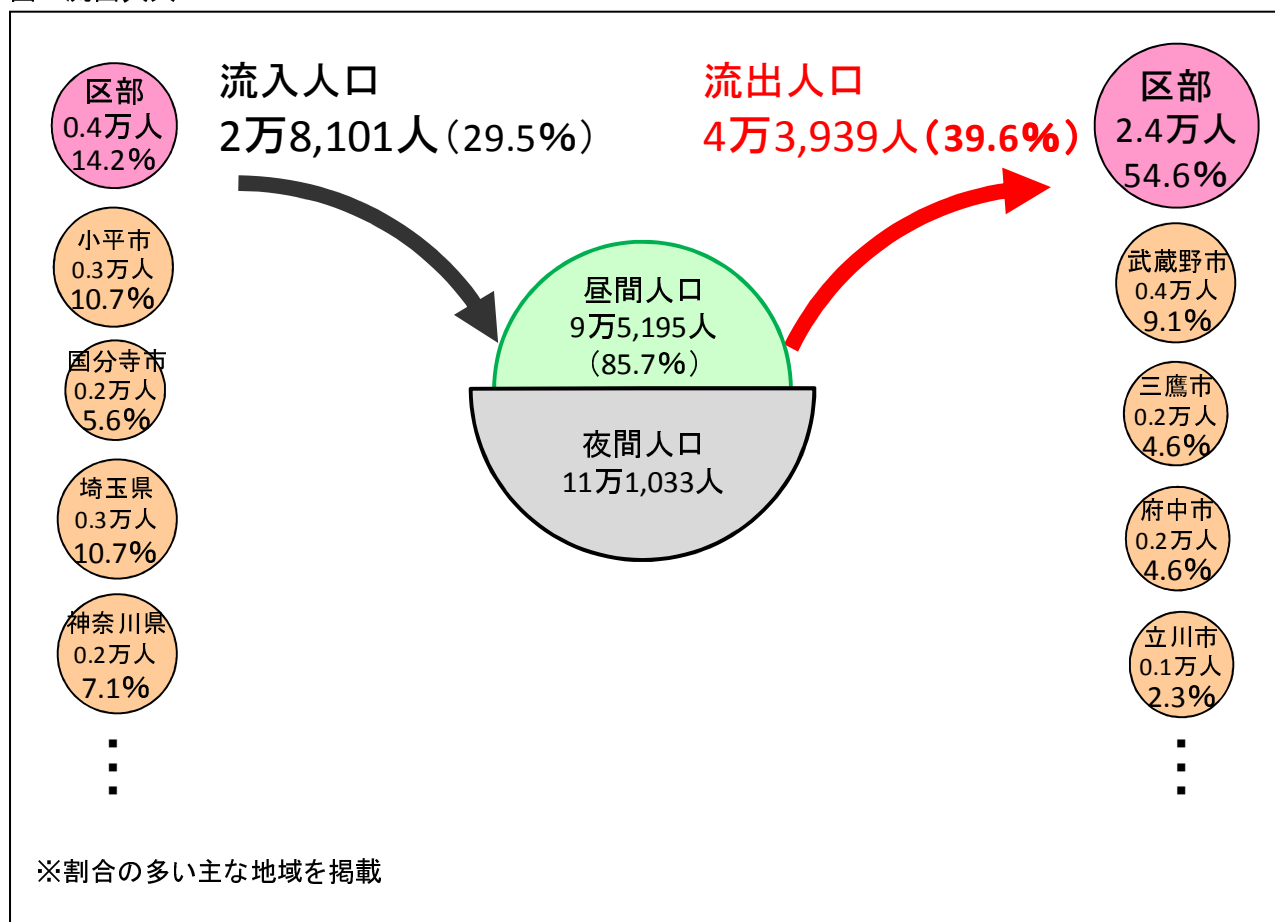
(1) 1日の流出入人口

本市では、東西に走る JR 中央本線の武蔵小金井駅と東小金井駅から東京都区部、吉祥寺方面への通勤・通学、又は、立川、八王子方面への通勤・通学等が中心となっています。また、東小金井駅の南側に西武多摩川線の新小金井駅があります。

1日当たりの流出入人口をみると、昼間は、市民の約40%（4万3,939人）が通勤・通学等で市外に流出しています。そのうち、東京都区部への通勤・通学者が約2.4万人と流出人口の約55%を占めており、都心部のベットタウンとなっていることが分かります。

一方、昼間人口の約30%（2万8,101人）は市外からの通勤・通学者となっています。

図 流出入人口



出典：平成17年国勢調査

(2) 鉄道乗客数

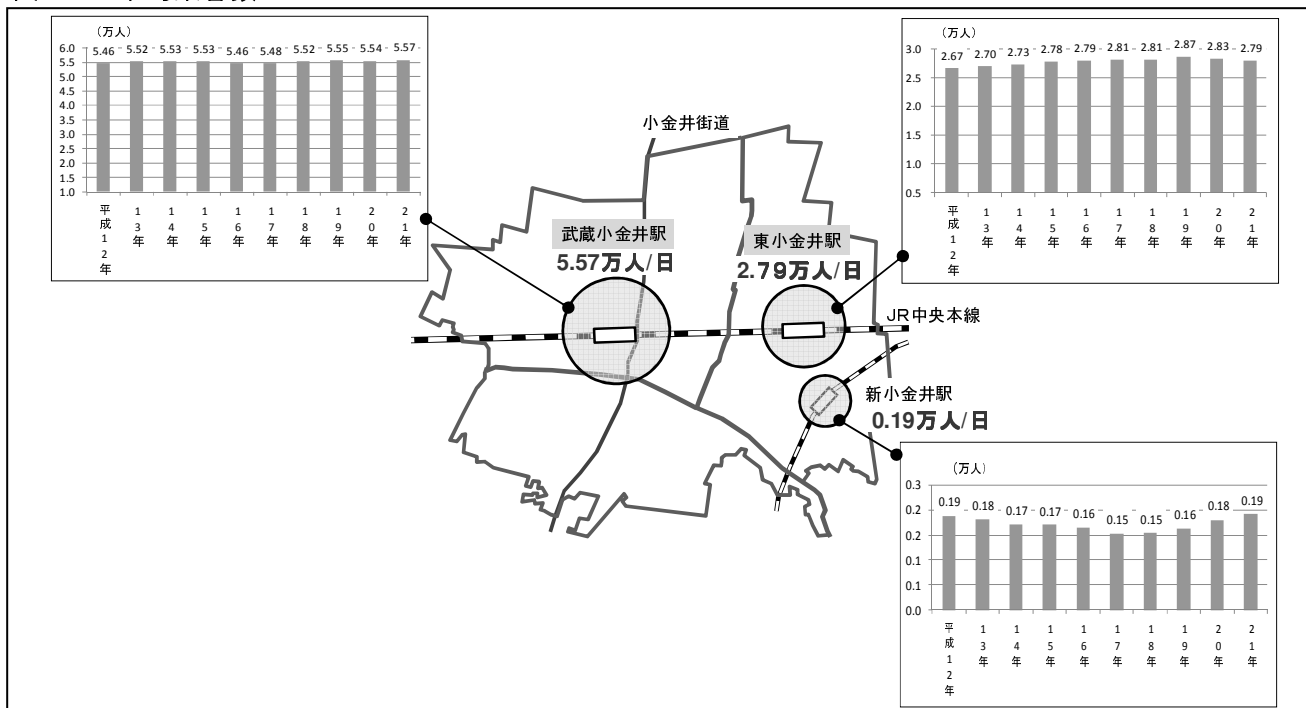
市内にある3駅の1日当たりの乗客数をみると、武蔵小金井駅が5万5,742人、東小金井駅が2万7,893人、新小金井駅が1,912人（平成21年度）となっており、市内の駅の乗客数の過半を武蔵小金井駅が占めています。

1日当たりの乗客数の推移をみると、年ごとに多少の増減はありますが、近年は、武蔵小金井駅及び新小金井駅は微増傾向、東小金井駅は微減傾向にあり、市全体ではほぼ横ばいとなっています。

また、市内にある3駅の1日当たりの乗客数の合計は8万5,547人となり、前頁の流出入状況が継続していると仮定した場合の流出入人口約7.4万人※と比較すると、昼間市から通勤・通学していく流出入口の多くが駅を利用し、鉄道で移動していることが推測されます。また、通勤・通学以外にも買い物等で駅から鉄道を使って出ていく人がいることも含めると、駅を中心とした行動となっていることが推測されます。

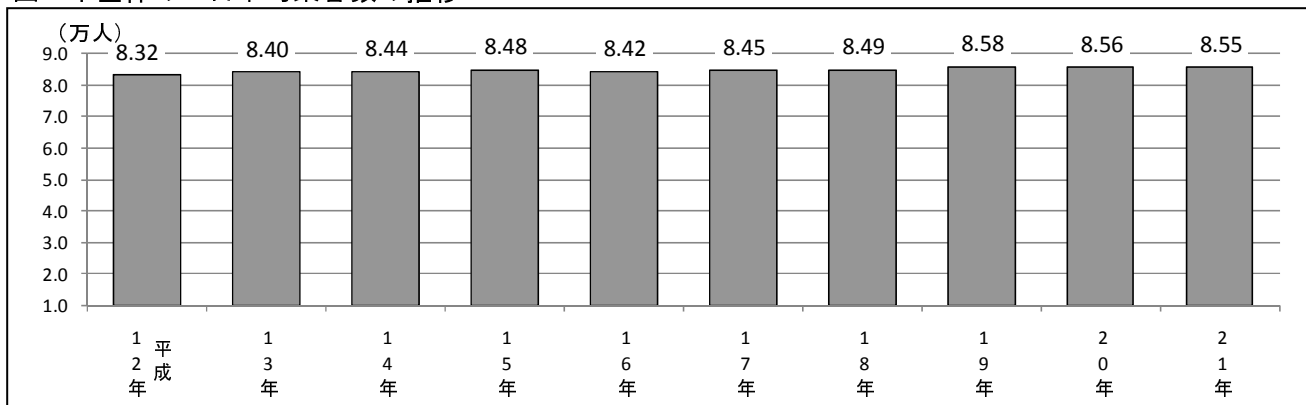
※11.6万人（平成24年人口）×40%（平成17年の流出入口割合）+2.8万人（流入人口は平成17年と同程度と仮定）=7.4万人

図 1日平均乗客数



出典：東京都統計年鑑を基に算出（平成21年）

図 市全体の1日平均乗客数の推移



3. 市の人口

(1) 市全体の人口動態

① 人口推移

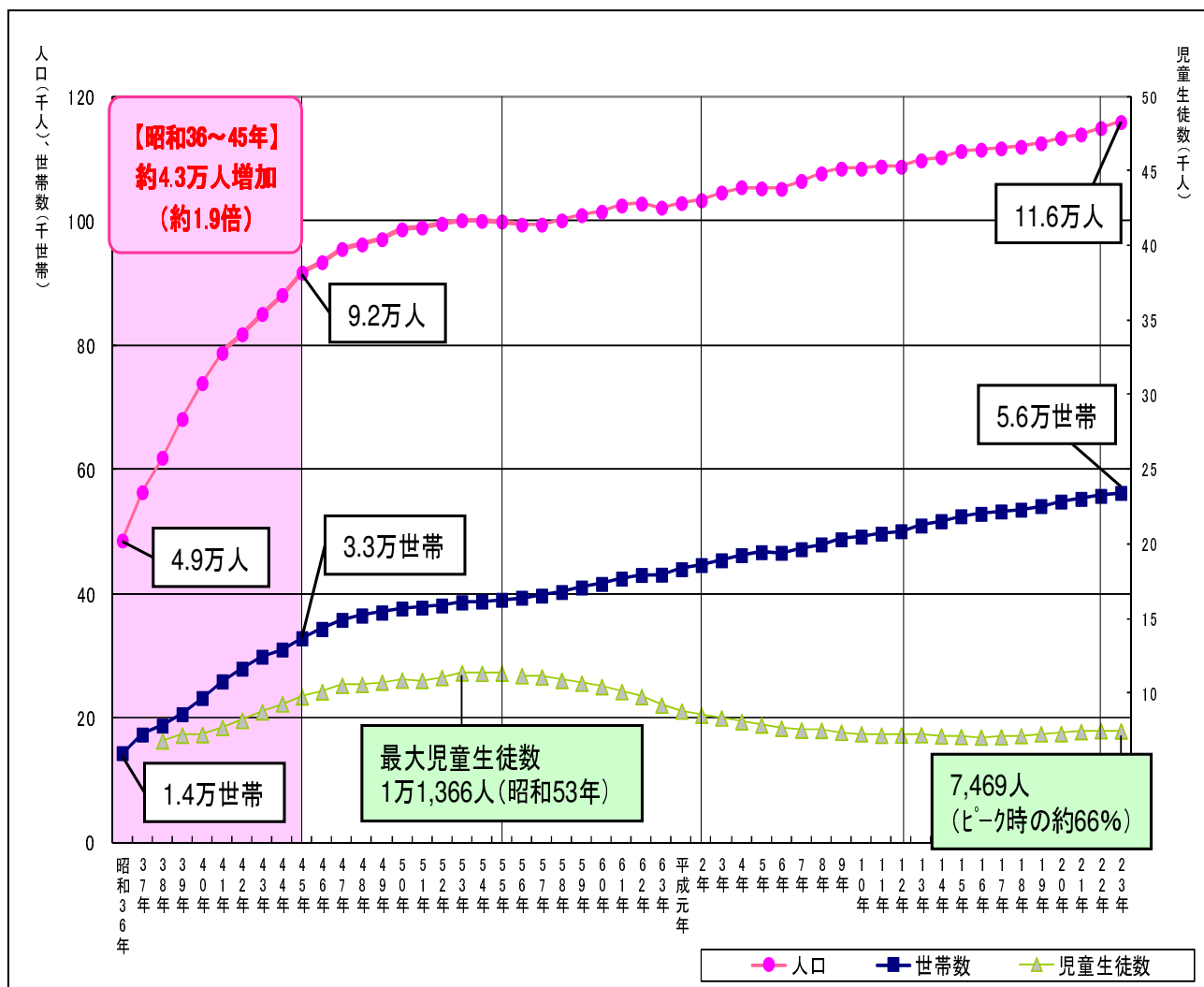
人口の推移をみると、昭和36年から昭和45年までの10年間（1960年代）に急増（人口は約1.9倍、世帯数は約2.3倍）しました。

この間では、公団、公社住宅や国家公務員宿舎などの大規模団地が建設され、昭和39年に日本初の請願駅として東小金井駅が開業されたことを契機に、急激に住宅地が形成されました。また、昭和34年に武蔵小金井駅北口広場が整備され、大型の商業施設等が流入してきました。

現在まで人口は微増傾向が続いており、平成23年5月1日現在、約11.6万人、約5.6万世帯となっています。

公立小・中学校の児童生徒数は昭和53年の約1.1万人をピークに減少傾向となり、平成23年5月1日現在、約0.7万人と、ピーク時の約66%まで減少しています。

図 人口及び世帯数、公立小・中学校児童生徒数の推移（各年5月1日）



(資料)

- ・人口及び世帯数：市民部市民課
- ・公立小中学校の児童生徒数：学校教育部学務課

② 年齢3階層別人口の推移及び将来人口推計

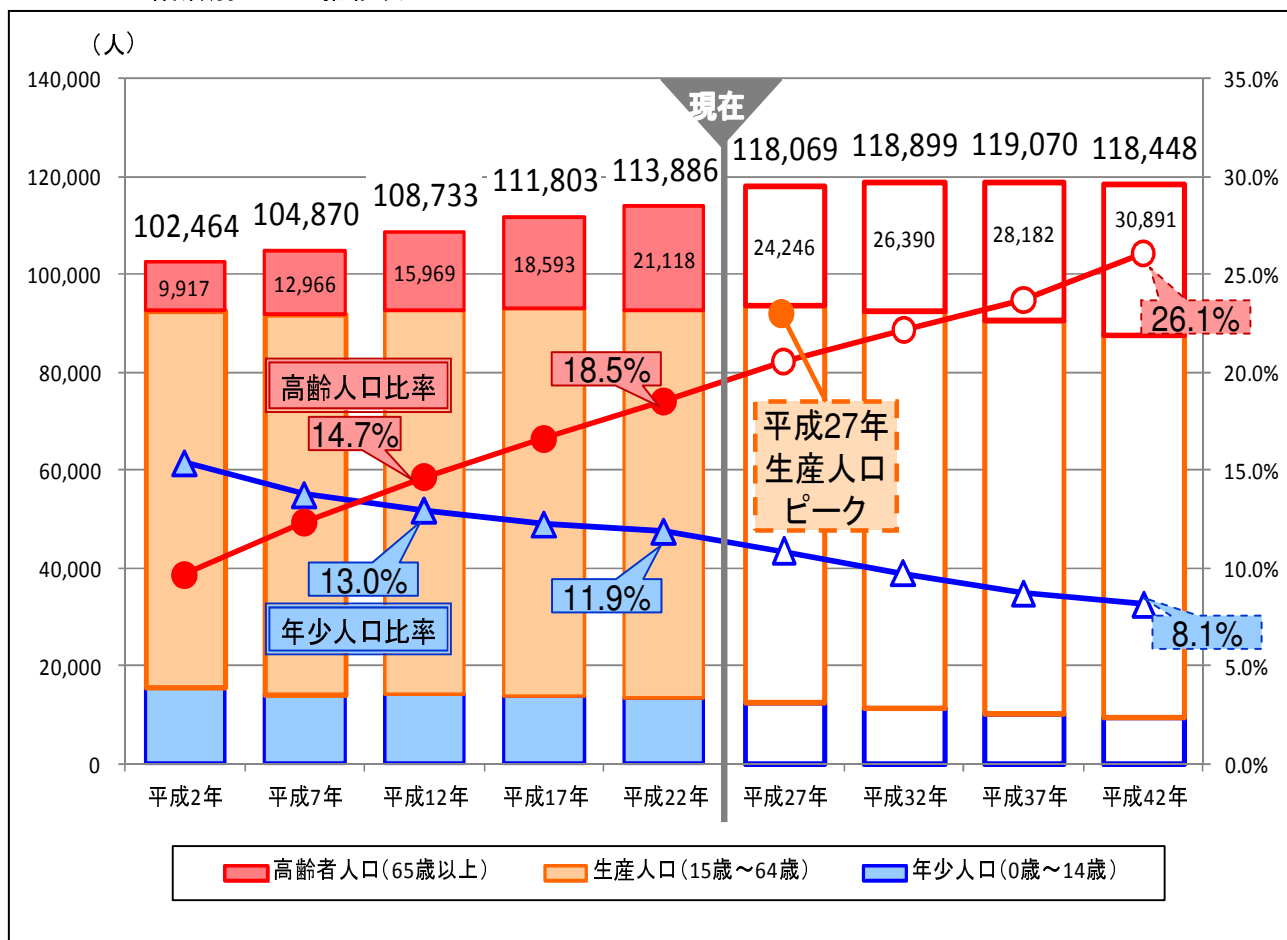
今後の将来人口は、市全体では微増傾向が続きますが、平成37年をピークに減少傾向に転じると推計しています。

年少人口、生産人口及び高齢者人口の年齢3階層別人口構成の推移をみると、高齢者人口比率は平成12年（約15%）から平成22年（約19%）までに約4ポイント増加した一方、年少人口比率は平成12年（約13%）から平成22年（約12%）までに約1ポイント減少しており、本市でも人口構成が変化し、少子・高齢化が進んでいることがわかります。

今後の将来人口推計の内訳をみると、高齢者人口は平成22年の約2.1万人から平成42年の約3.1万人まで約1.0万人増加すると推測される一方、生産人口は、現在までは微増傾向ですが、平成27年をピークに減少に転じると推測されます。

1日当たりの流出入状況を見ると、現在人口の約40%が昼間通勤・通学で市外へ流出していますが、今後高齢者人口が増加することにより、昼間市内で行動する人が増加することが予測されます。

図 年齢3階層別人口の推移及び将来人口推計



※平成2年及び平成7年の人口は、住民基本台帳の人口

平成12年から平成22年までの人口は、住民基本台帳及び外国人登録の人口

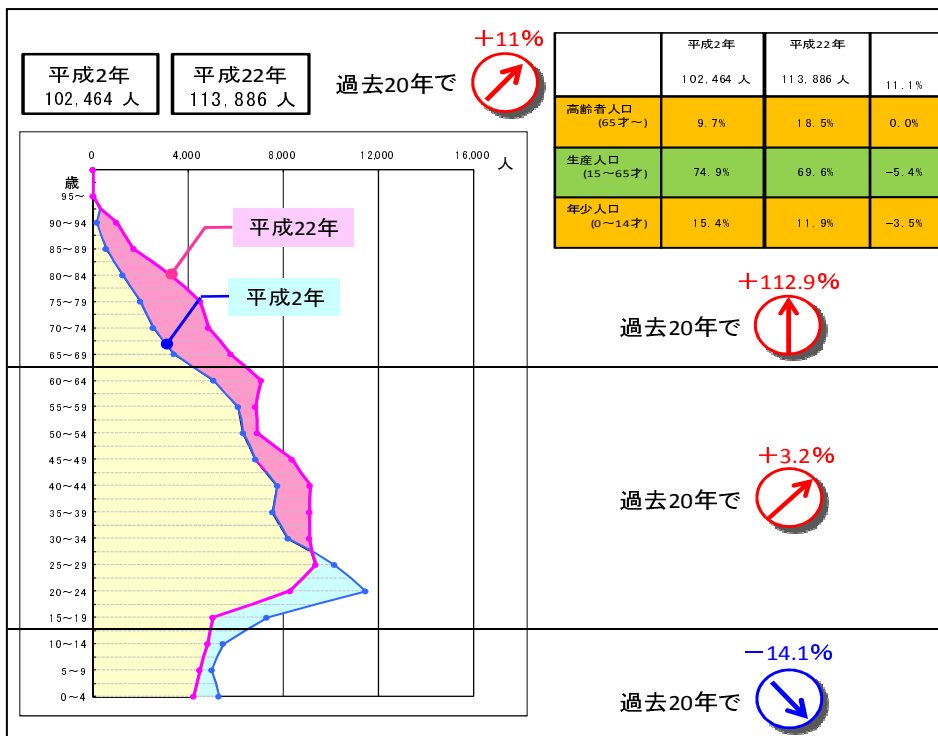
平成27年以降の人口は、平成22年1月1日の小金井市の人口を基に、国立社会保障・人口問題研究所が算出した出生率・生存率・純移動率によりコーホート要因法を用いて推計

③ 年齢5歳階層別の人口推移及び将来人口推計

今後の年齢5歳階層別人口の変化をみると、45歳未満の世代は減少、45歳から64歳までの世代は増加し、今後更に高齢化が進むと推計しています。

昼間市内で行動する人が増加することと合わせ、45歳未満の人口が減少することが推測され、今後公共施設サービスのニーズ及び市民の生活圏が変化することが予測されます。

図 年齢5歳階層別の人口推移（平成2年～平成22年）



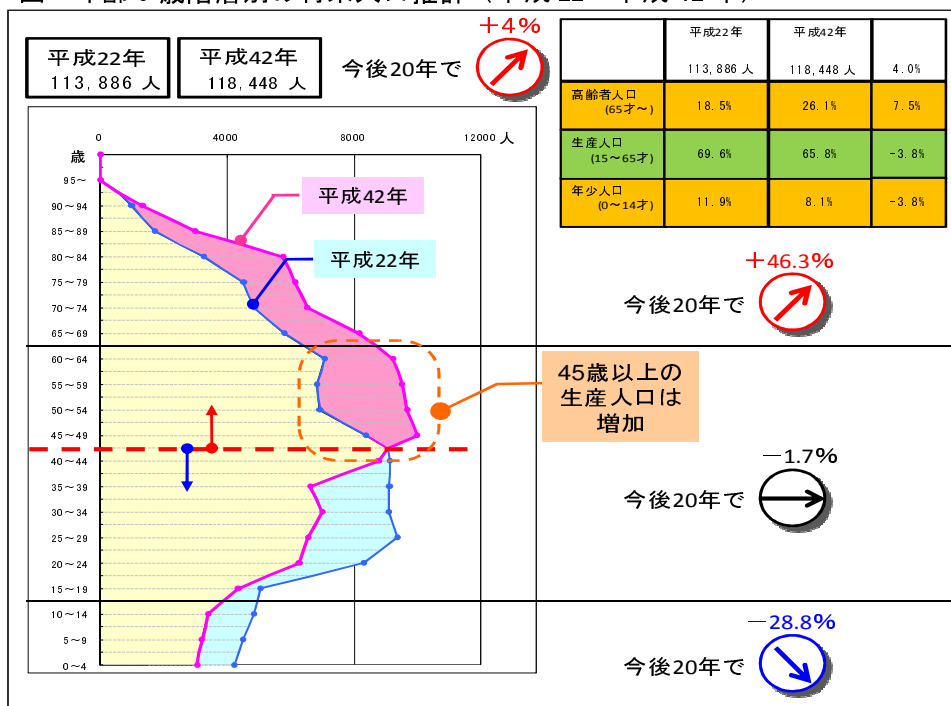
過去20年間で総人口は1万1,422人(約11%)増加しています。

人口構成の内訳をみると、平成2年時点では20代の人口に大きなピークがありましたが、平成22年時点では大きなピークがなくなり、平成22年時点で40代となる人口が流出したことが分かります。

一方、平成22年時点では20代～30代前半となる人口が流入していることが分かります。

(資料) 人口及び世帯数：市民部市民課

図 年齢5歳階層別の将来人口推計（平成22～平成42年）



今後20年間で総人口は4,562人(約4%)増加すると推計しています。

人口の内訳をみると、20年後には45歳未満の生産人口が減少する一方、45歳以上の生産人口や高齢者人口が増加すると推計しています。

年少人口は、減少し、20年後には年少人口比率が約8%になると推測されます。

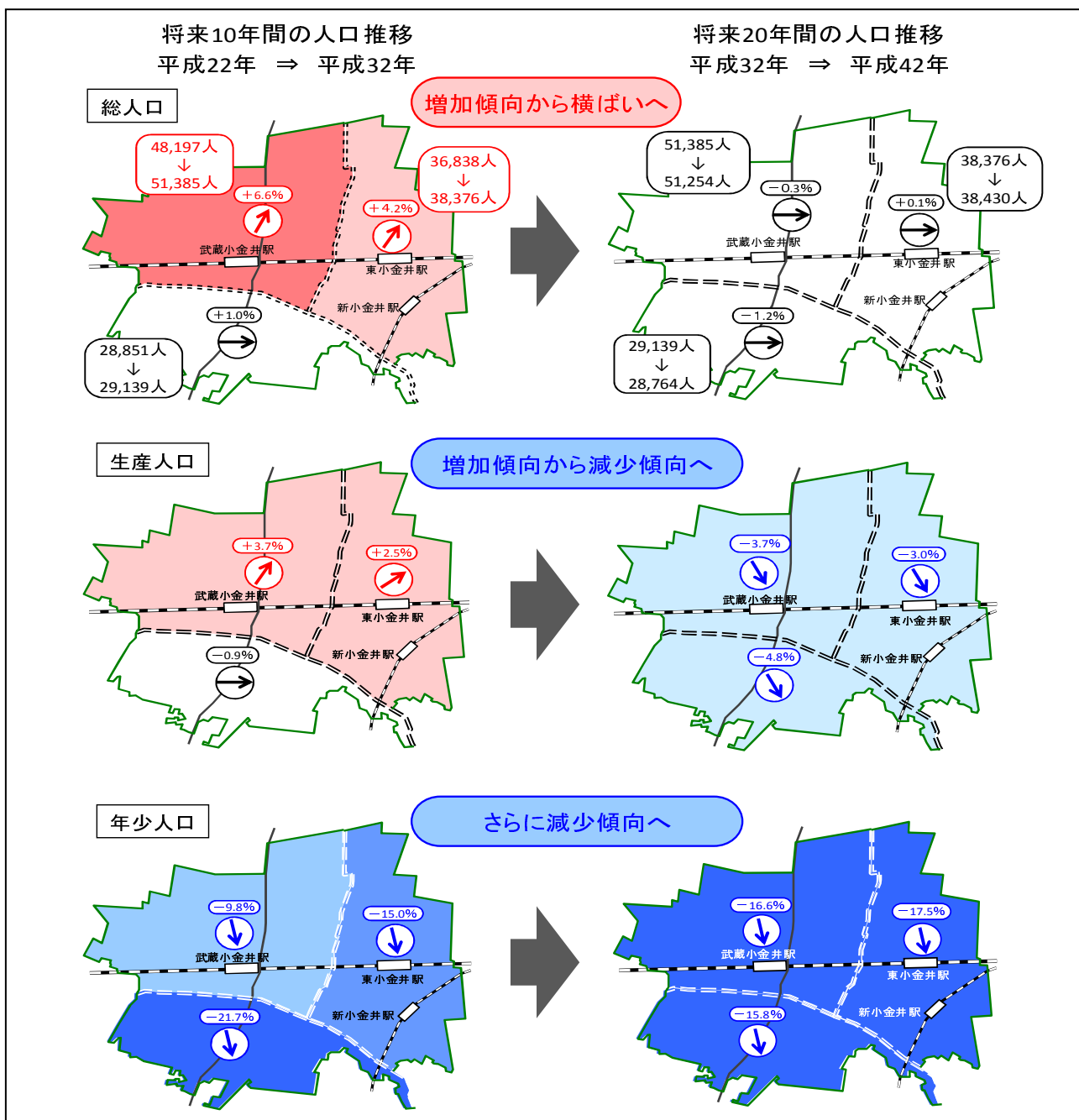
※平成27年以降の人口は、平成22年1月1日の小金井市の人口を基に、国立社会保障・人口問題研究所が算出した出生率・生存率・純移動率によりコーホート要因法を用いて推計

(2) 地域別の人口動態

① 地域別の将来人口推計

地域別の今後20年間の人口推計をみると、総人口については、武蔵小金井地域及び東小金井地域では、平成32年までは増加していますが、それ以降は横ばいとなり、野川地域では、平成42年までほぼ横ばいと推計しています。生産人口については、平成32年までは武蔵小金井地域及び東小金井地域では増加、野川地域では横ばいとなり、それ以降はいずれの地域でも減少すると推計しています。年少人口については、武蔵小金井地域及び東小金井地域では平成32年以降更に減少傾向が強まりますが、野川地域では減少傾向が弱まると推計しています。なお、高齢者人口については、いずれの地域でも増加すると推計しています。

図 地域別の将来人口推移（平成22年～平成42年）



※平成22年の人口は、住民基本台帳及び外国人登録の人口を基に算出

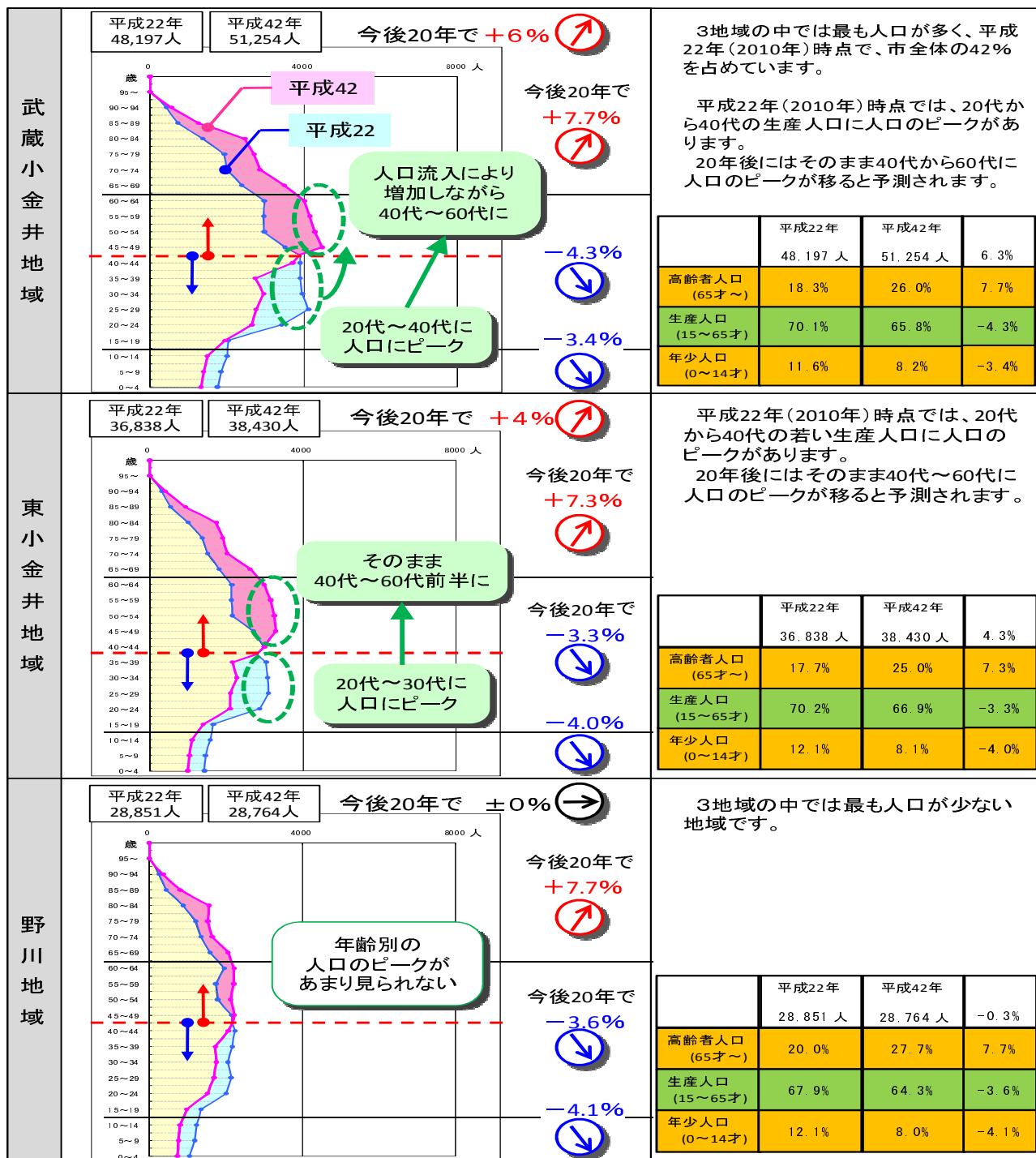
平成32年及び平成42年の人口は、平成22年1月1日の小金井市の人口を基に、国立社会保障・人口問題研究所が算出した出生率・生存率・純移動率によりコーホート要因法を用いて推計

② 地域別の人口構成の変化

今後20年間の地域別の人口構成の変化をみると、武蔵小金井地域及び東小金井地域では新たな人口の流入があると推測される一方、野川地域の総人口は横ばい傾向であり、大きな人口変動が見られず、定住率が高い地域となっています。

また、今後は地域内で行動する人が多くなることが予測されることから、地域ごとの人口構成によって、求められる行政サービスの内容が異なることが考えられます。今後も地域ごとに人口構成及び生活圏の変化等を把握していく必要があります。

図 地域別の人口構成の変化（平成22年～平成42年）



※平成22年の人口は、住民基本台帳及び外国人登録の人口を基に算出

平成42年の人口は、平成22年1月1日の小金井市の人口を基に、国立社会保障・人口問題研究所が算出した出生率・生存率・純移動率によりコーホート要因法を用いて推計

4. 地域特性の把握

(1) 3地域の区分

武蔵小金井駅の駅勢圏、東小金井駅の駅勢圏及びはげ坂下の生活圏と、本市の地域は市民の生活圏で区分していますが、今後はJR中央本線の高架化により、以前は線路によって分断されていた南北の住民の往来が活発化することや、今後の高齢化に伴い、住民の生活圏（移動範囲）が変化すると予測されます。

(2) 各地域の特性

コンパクトな本市の中でも、地域によってその役割や街並み、特性が異なることが分かり、人口構成だけでなく、地域の特性によっても求められる行政サービスの内容が異なることが推測されます。

この地域特性と第3章でまとめた各施設の課題を合わせて、第4章で地域ごとの行政施設を通じた行政サービスの実態及び課題をまとめています。

表 各地域の特性

<p>武蔵小金井 地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 武蔵小金井駅周辺は、商業・業務及び住宅との調和のとれた魅力ある文化性の高い市街地として整備している。 ● 武蔵小金井駅の南口には、市役所本庁舎、第二庁舎、図書館及び福祉会館（公民館本館等設置）といった多くの施設が配置されている。また、武蔵小金井駅を中心に大型商業施設も整備されており、本市の中心地域となっている。 ● JR中央本線の高架化に合わせ、武蔵小金井駅南口の再開発事業が行われ、野川地域や他市を結ぶバスなどの交通結節点となっている。 ● 現在、武蔵小金井駅周辺にはマンションなどの都市型住宅があり、人口密度が高くなっている。 ● 地域の北西部に東京学芸大学及び中央大学附属中学校・高等学校があり、武蔵小金井駅周辺だけではなく新小金井街道にも飲食店が多く立地している。
<p>東小金井 地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 東小金井駅周辺は、東部地区の中心として一部に商業、業務機能を持たせた地区として整備している。 ● JR中央本線の高架化に合わせ、東小金井駅北口周辺の土地区画整理事業により、都市基盤の整備を進めている。 ● 地域内に東京農工大学及び法政大学などがあり、東小金井駅周辺ではにぎわいを見せている。
<p>野川地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 野川地域は武蔵野公園、野川公園の玄関口として、自然環境を活かした市街地を目指している。 ● 武蔵野公園、野川公園、多磨霊園及び国分寺崖線（はげ）周辺のみどりなど、地域内に多くのみどりが残っている。 ● 低層住居を中心とした住宅地が広がり、みどり豊かで良好な住環境が形成されている。 ● 地域内に鉄道駅がなく、コミュニティバス等の公共交通機関や自転車が主な通勤・通学の手段となっている。地域の東部では、商店等が不足しているため、駅周辺へのアクセス向上が求められる。

(3) 今後の整備計画

本市の第4次基本構想・前期基本計画「小金井しあわせプラン」における今後の公共施設整備に関する主な事業をまとめました。

図 施設一覧

<p>【既存公共施設の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中間処理場 ● 総合体育館 ● 福社会館 ● けやき保育園・ピノキオ幼稚園 ● 新庁舎 <p>【新規整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 駐輪場 ● (仮称) 市民協働支援センター ● 防災センター ● ベンチャー・SOHO事務所 ● 農産物直売所 ● 消費生活センター ● (仮称) 男女平等推進センター ● 中央図書館 ● (仮称) 貫井北町地域センター (公民館分館、図書館分室) ● 小金井第一小学校・南小学校地区児童館 ● 発達支援センター ● 保健福祉総合センター ● (仮称) 東小金井市政センター
--

5. 隣接市との関係

本市は、武蔵野市、三鷹市、府中市、調布市、小平市、国分寺市及び西東京市の計7市と隣接しています。

本市、武蔵野市、三鷹市及び西東京市の4市では、図書館、文化施設・ホール、スポーツ施設等の郊外施設も含めた54施設を共同利用することができます。また、図書館については、府中市とも相互利用をしています。

今後、子育て世代の割合が少なくなることが予測されており、将来にわたって地域や福祉を支えていくために、子育て世代を呼び込むための魅力ある行政サービスを実施する必要があります。その際は、他の隣接市との共同利用をさらに強化をして実施していくことも検討する必要があります。

また、本市と隣接市の間では、電車やバス等での利便性も良く、広域連携の観点からも、共同利用・相互利用の推進が求められています。

図 隣接市施設マップ

